

# 鳥取縣公報

昭和十一年三月二日  
第千四百十二號

火曜日

本誌ノ大キサハ國定規格A5判

## 目次

### 告示

- 十八年度戰時災害救助計畫樹立市町村指定……………一頁
- 産婆名簿登録者……………二頁
- 産婆登録名簿取消者……………二頁
- 國民學校教員免許狀授與者……………三頁
- 彙報……………
- 三月の大詔奉戴日實施方策……………五頁
- 三月の常會徹底事項……………五頁
- 撃ちてしまひ……………七頁
- 米穀供出報國運動……………九頁
- 其の他……………

## 告示

### 鳥取縣告示第百二號

昭和十八年度戰時災害救助計畫ヲ樹立スベキ市町村左ノ通指定ス  
昭和十八年三月二日  
鳥取縣知事 土 肥 米 之

昭和十八年度戰時災害救助計畫樹立市町村

鳥取市

米子市

岩美郡 岩井町、浦富町、宇倍野村

入頭郡 智頭町、若櫻町、用瀬町、河原町、賀茂村

氣高郡 青谷町、鹿野町、正條村、寶木村、湖山村、大正村

東伯郡 倉吉町、由良町、赤碕町、入瀬町、浦安町、中北條村

日下村

西伯郡 境町、淀江町、御來屋町、中濱村、大篠津村、渡村、

鳥取縣公報

毎週 曜日發行

(休日ニ當ル  
時ハ翌日)

昭和十八年三月二日  
第千四百十二號

(昭和四年四月十五日  
第三種郵便物認可)





00715

斷乎として外米に頼らない様にするには割當の供出は是非守らなければなりません。又思ひきつて甘藷の大増産をやり今年こそ是非でも食糧を國內で自給せねばなりません。

- (一) 供出米の割當量は必ず出させよう。
- イ、部落會・町内會ではみんなが本年の米穀事情をよく呑み込んで愛國の赤誠をこめて供出すること。
- ロ、部落會・町内會ではお互の家々で助け合ひ、部落會・町内會の割當量は責任を以て供出し、市町村への割當を果すこと。

(二) 「反當千貫」の甘藷の大増産をやり遂げませう。

- イ、甘藷は作り方を工夫すれば反當り従来の二倍三倍は必ずとれます。
- ロ、それには、良い丈夫な苗を澤山作ること。苗床を廣くして薄伏せとすること。出来るだけ温床育苗を行ふこと。
- 二、二百三十億の貯蓄は必ずやり遂げませう

本年の貯蓄は昨年の末までに百八十億圓に達しました。一月から三月までにあと五十億です。最後の頑張りの月です。この貯蓄目標を突破させよう。

イ、部落會・町内會・隣組ではこれまでの貯蓄額や國債、債の消化額を調べて見て未だ足りなければ今月中には割

當額に達するやう努めること  
ロ、出来るだけ「間に合せ」を實踐して衣類の繕ひや利用等で新調を差控へ、また進んで副業や内職を勵行して貯蓄の源泉を生み出すこと

ハ、簡易な積立貯金や定額郵便貯金、彈丸切手などを利用して貯蓄の増加に努めること。

三、兵器生産のために電氣瓦斯を節約させよう。

全國の家庭で三十ワットの電燈を一時節約すればその電力で飛行機二臺分のアルミニウムが出来、また瓦斯を一ヶ月に一立方メートル節約すれば、それで貨車五百輛の石炭が浮くのです。

電氣瓦斯を節約することは飛行機・大砲・戦車の生産への獻納となります。

イ、電氣電燈はなるべく小さい球で済まし、手まめに消し定額燈でもつけ放しせず、また電燈は家族が集つて利用する工夫をすること。

ロ、瓦斯メーターの讀み方を覚えて割當量は絶対に嚴守すること。焰は青くして使ひ、チョットでもつけ放しにせずマツチをつけてから瓦斯は出すこと。

00716

### 撃つてし止まむ

勝ち抜かねばおかぬ我等が決意  
本年こそ敵米英完全撃碎の年

米英撃滅は今や我が國の絶對使命である。

彼等が誇るその經濟力の老大きさを以て軍備を再編成して我に反攻を目論み、北はアラスカ公路を整備してアリニューシヤンから我が北邊を窺ひ、あわよくばシベリヤを経て南下せんとし、或は支那大陸に基地を築いて渡洋我を爆撃せんと企て、又南太平洋の我が占領地帯をも奪還して本土襲撃を夢みてゐる等の點からいつて敵の戰意は決して生やさしいものでないことは明瞭である。彼等は過去一ヶ年餘の慘敗に次ぐ慘敗も、たゞ緒戦期に於ける不用意のところを奇襲された爲の一時の失策であるとし、今や彼はその工業力と物と人とを動員して軍備を整へ、小糧にも本年を以て反攻し來りて我に逆襲し、我が大東亞共榮圈建設の大理想を踏みにちつて、世界制覇の野望を達成しようと企圖してゐるのである。

我等は過去半歳に餘るソロモン激戦、その他各方面に於ける皇軍の惡戰苦闘と敵の惡虐ぶりを聞いた。又交換船による歸還同胞達が敵國內に於て如何に無道の取り扱ひを受けたかを聞いて切齒

扼腕した。平素口に人道を唱へ文化を誇つた彼等が、如何に鬼畜に等しい慘忍無頼の人種であつたかをまのあたりに見たのである。大東亞戰爭は決して中道に於て妥協したり、好い加減な調停で平和を挽回し得べき戰爭ではない。眞に食ふか食はれるか、彼滅びるか我亡ぶかの大決戦である。我々は祖先以來三千年の光榮ある歴史を踏して敵を徹底的に擲きつけ、敵をして再び立つ能はざらしめるまでに撃滅し殲さなければならぬのである。

而してこれが爲にはもとより戦は長期戦である。しかしこの昭和十八年こそは敵を完全に屈伏せしめてその企圖を粉砕すべき重大の年なのである。我等は如何なる苦痛にも堪え、眞に戦ふ國民としての生活に徹し、敢然として國內これ戦場の奮闘生活に突進しなければならぬ。

陸軍では来る三月十日の陸軍記念日を中心に「撃つてし止まむ」の標語の下に舉國米英撃滅の敵愾心を以て、頑敵必滅を期する大運動を展開することとなつたのであるが、これはたゞに陸軍のみでなく又三月十日のみでなく、この一年、否戦の續く限り全國民の全身全靈に漲る大覺悟でなければならぬ。そも、この標語は神武天皇御東征に際し大和の國に蟠居せる長髓彦を誅し給ふに當りて歌ひ給ふた大御歌に基くものである。即ち古事記に

00717

然後、登美毘古を撃ち給はむとせし時の歌曰  
 満々し 久米の子等が 粟生には  
 臭韭一莖 其根が莖 其根芽繁きて

又歌曰  
 満々し 久米の子等が 垣下に  
 植ゑし置 口ひびく 吾は忘れじ

又歌曰  
 神風の 伊勢の海の 大石に  
 蔓延廻ろふ 細螺の 蔓延廻り

と記されてあるによる。  
 登美毘古は長髓彦のこと、みつみつしは久米の枕言葉で、久米は元來「くる目」の義、くるくした眼のことであるから、満々しく圓に大きな眼をした勇ましい久米部の意、粟生は粟の畑、臭韭は「にら」のこと、其根が莖は非は根抜きにして食ふものであるから、根を長髓彦にたとへて其根芽つなぎてとつづけて首魁の長髓彦も部下の者共も一緒にの意、置は生置、山椒の類、口ひびくは口、ヒリヒリすること、神武天皇は長髓彦の矢の筈に御兄五

瀨命を失ひ給ふた、この賊共に對する御恨は骨身に沁みて忘れられぬとの御意味がうかゞはれる。神風のは伊勢の枕言葉、細螺はきざと又はきしやごのこと、はひもとほるふは這ひ廻るの意、ふはるの延音、いはひもとほりのいは這ふの接頭語である。

御歌の意味は「勇壯なわが久米部の作つてゐる粟畑に交つて生えてゐるあの一本の細い韭のやうな賊共よ、韭の根も芽も一緒に引き抜いてしまふやうに、長髓彦も輩下の者共も諸共に討ち滅してしまはう」「勇ましい久米部の住む家の垣下に植ゑてある置がいつもヒリヒリ辛いやうに、この賊どもへの恨は如何なることがあつても忘れられない。必ずあの賊共を討ち滅してしまはう」「伊勢の海にある大石に這ひまはつてゐるあの細螺のやうに、我が猛き軍勢をもつて賊を取り圍み、一人も残さず撃滅してくれよう」と、いづれも敵必滅の固き御決意をのべさせ給ふたものである。

神武天皇御東征の軍は實に惡戰激闘の連続であつた。皇兄五瀨命は御戰死遊ばされ、天皇御自身も「血沼の海に到りてその御手の血を洗ひたまふ」た程の奮戦を遊ばされてゐる。又紀伊の熊野では全軍悉く悪者の毒氣に觸れて昏睡の状態に陥つてゐる。このやうに非常な惡戰の連続であつた天皇は、この非常な時に際會せられ給ふてもなほ飽く迄も「撃ちてしまむ」の堅き決意をも

00718

つて荒々しく神どもを言向け平和し、伏はぬものどもを涙擦げたまひ、遂に肇國の大業を成就遊ばされたのである。まことに「撃ちてしまむ」の標語こそは我が肇國の大業を貫くものであつたのである。

神武天皇の御東征は豊葦原瑞穗國の蒼生を浴く皇化に浴せしめんとの大御心に出づる肇國の大理想によるものであつた。そして今度の大東亞戰爭が、この肇國の大理想入紘一字の御精神の下に暴戻米英の侵略の魔手を驅逐して大東亞十億の民をして各々その處を得しめようとするものであることは、開戦にあたり下し賜ふた宣戰の大詔を始め、總理大臣の數次に亘る聲明によつても明かである。しかしこれが目的完遂の爲には一億國民決死の大覚悟によらねばならぬ。我等は今や大東亞戰爭決戦の年昭和十八年を迎へた。戦ひは益々激烈を極めよう。國民の生活もいよ／＼深酷とならう。我々は更に緊張に緊張を重ね、困苦缺乏に堪えて戦力を強化し、前線將兵に劣らぬ敢闘によつて敵を撃滅せねばならぬのである。

撃ちてしまむ！撃ちてしまむ！！我々はあらゆる生活を擧げて戰爭完遂の爲に奮進し、勝つて勝つて勝ち抜いて、敵の反攻を片つぱしから撃碎するのみならず、進んで彼等の心臓部に我が神

劍を加へ、徹底的に米英を撃碎し碾きさう。戰場に於て工場に於て農場に於て家庭に於て、すべての力を擧げて我等は敵を撃滅に突進しよう。

完 遂 聖 戰

### 米穀供出報國運動

二月中旬より三月末日まで

現下内外の諸情勢に鑑み、速かに外米依存から脱却して食糧の國內自給を圖り、戰時國民食糧に一抹の不安をもなからしめると共に、外米輸送船舶を直接作戦に提供することに決死の努力を傾注することは、決戦下皇國農村に課せられた重大使命でなければならぬ。幸にして昨年に於ける内地の米穀生産が、天佑神助の下全國農民の刻苦敢闘によつて稀有の農作を見、更に全國農村各地に供出完遂の氣運が澎湃たるものあることは國家の爲に慶賀に堪えぬところである。

依つて茲にこれ等各地農村の供出に對する赤誠を集大成し、昭和十七年産米供出數量四百萬石突破を目標として、二月中旬より三月末日までを以て全國的に聖戰完遂米穀供出報國運動を展開

